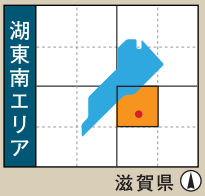
史跡
県指定

八幡社古墳群

はちまんしゃこふんぐん

八日市市中羽田町　昭和58年3月28日指定



県内最古級の大型前方後円墳を山頂にいただく雪野山には、200基以上もの古墳が造られています。八幡社古墳群もその一部で、雪野山の東麓に緩く開けた谷間に立地する、前方後円墳を含む17基の古墳からなる後期古墳群です。

当時のできごと	
531年	継体天皇没す
552年	仏教の受容を巡り蘇我氏と物部氏が対立
572年	蘇我馬子大臣、物部守屋大連となる

八幡社古墳群

雪野山山系の東麓の山裾に位置し、17基の古墳が山腹から山裾にかけて2～3基ずつのまとまりを持って直線的に分布しています。一般的な古墳群が尾根上に築かれるのに対し、この古墳群は緩く開けた谷上にあるところが、立地上の特徴となっています。古墳は、いずれも横穴式石室を主体部とする、6世紀中頃から7世紀初頭にかけての、古墳時代後期のもので、前方後円墳の46号墳を除き、全て墳丘径が約6～15m程度の円墳で構成されています。

後期群集墳に前方後円墳が含まれる事例は、県内では知られておらず、この古墳群が、在地の首長層の墓域である可能性をうかがわせると共に、古墳時代後期における、「前方後円」という古墳の形の持つ意味を考える上でも重要な遺跡です。



八幡社古墳群



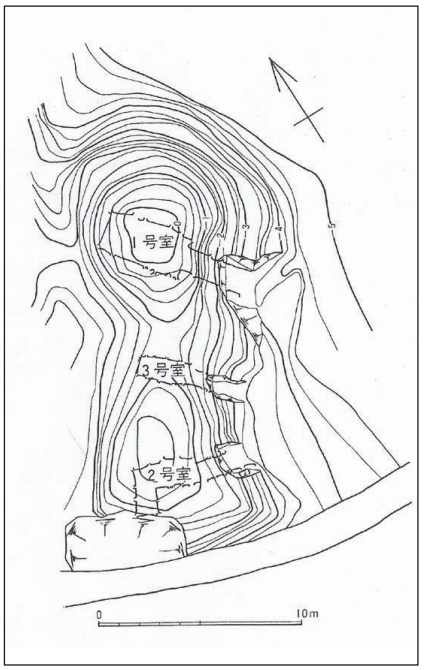
八幡社古墳群測量図

46号墳について

46号墳は、古墳群の中でも比較的開けたところに位置する、県下で最も新しい時期の前方後円墳です。規模は、全長が約24mと小型で、前方部を南西（谷奥）に向けています。後円部と15号墳は1mしか離れておらず、その間に周濠や葺石、埴輪などは認められていません。この古墳の後円部には全長約7.5mの両袖式の、前方部に全長約6mの副室を持つ片袖式の、くびれ部に全長約5.5mの片袖式の、3カ所の横穴式石室の主体部があることが、大きな特徴となっています。これらの石室は、いずれもおおむね東方向に開口しています。石室の造られた時期は同時ではなく、後円部、前方部、くびれ部の順に、6世紀後半から末までの比較的短い間に構築されたと考えられています。



46号墳全景



46号墳測量図



46号墳開口部

関連する文化財

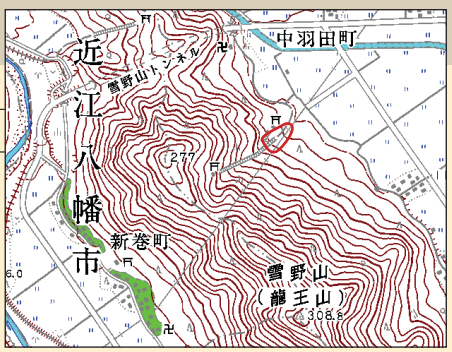
木村古墳群（蒲生町）	学習シートNo.052
雪野山古墳（八日市市）	未盗掘の前期前方後円墳
雪野山丘陵後期古墳群（八日市市）	雪野山古墳が所在する山塊中に築かれた後期古墳群

もっと深く知りたい

八日市市教育委員会　☎0748-24-1234　八日市市緑町10-5

安土城考古博物館　☎0748-46-2424　蒲生郡安土町下豊浦6678

八幡社古墳群へのアクセス　ＪＲ琵琶湖線　近江八幡駅下車
近江鉄道　市辺駅下車



【参考文献】〔近江の遺跡〕（財）滋賀県文化財保護協会　〔滋賀県埋蔵文化財調査年報〕滋賀県教育委員会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月